

しこくのオルタナティブめざめる 四国はひとつ



神山恭昭
KOUYAMA YASUAKI

絵日記作家であり、絵画や彫刻、空間芸術など様々なものを創造するアーティスト。その多彩な活動が評価され、神山恭昭研究所所長、哲学カフェ事務局、教室法人ひるまの月代表、など数多くの要職に就いている。

工藤冬里
KUDOU TOURI

愛媛県東温市在住の陶芸家。マヘル・シャルル・ハッシュ・バズ (Maher Shalal Hash Baz) というバンドをひきいる音楽家としても知られる。

ギャラリーライブ・アート
GALLERY LIVE-ART

芸術の四国遍路展の愛媛会場です。ネットショップをはじめました。愛媛松山のアートギャラリー
<http://shop.liveart25.com/>

海野貴彦
Takahiko Kaino

現在、全国各地を演歌歌手さながらに巡り、作品発表を続け、まちおこしならぬ「ひとおこし」に全身全霊を捧げる。ゆえに海野が今いる場所が日本で一番面白いところとされる。

天歌布武信長
TENKAHUBU NOBUNAGA

“自分自身”と“信長”としての表現を模索しながら全国放浪。アコギを刀と称し、ビデオカメラを火縄銃と称し、音楽活動、映像活動を行う。2012年、表現を模索した結果、自分なりの「天下統一」を目指す。日本全国を自転車という“馬”で旅をしながら47都道府県の歌を作り、47都道府県ごとに走った軌跡を“信長の顔”になるように統一した“証”をGPSで記録する。統一できた都道府県はミュージックビデオとしてyoutubeで公開中。2015年から【天歌布武 信長】と改名。現在、四国の香川県で拠点を開き、西日本統一を企む。

ミズカ
Mizuka

香川県丸亀市出身。香川県で芸術士として保育所や幼稚園、こども園へ赴きこどもたちとアート活動をおこなっている。オリジナルキャラクター「ぼうや」を描き、グッズなどにして展開中。草木で染めた紙の表現を日々模索している。

さっこ
SAKKO

志々島のおんがく家。おうちのなかには 虫とねことピアノがいます。みんなそれぞれごはんをたべてくっついたり はなれたりして いっしょに暮らしています。

富松篤
Atsushi Tomatsu

「現代における人体彫刻の可能性」のテーマを機軸に都内を中心に個展、グループ展、東京アートフェアで作品を発表。徳島城博物館で開催された芸術ハカセは見た！展で流木を使用した立体作品を発表して好評を博す。

金藤みなみ
Minami Kinto

1988年徳島県生まれ、東京都在住。衣裳家・小道具家としてキャリアをスタートし、パフォーマンス、刺繍、zineなどを複合的に展開。2016年まで汝家家に在籍。女子美術大学・多摩美術大学大学院・新芸術校で学ぶ。「芸術ハカセは見た！〜徳島のひみつ〜」第1回に参加。

早瀬太亮
Taisuke Hyabuchi

鳴門教育大学大学院（彫刻）修了。在学中に彫刻家の野崎嗣氏より指導を受ける。学生時代に企画した展示が日本文化デザイン会議のイベントとして採用され、以降作品制作と地域や病院でのプロジェクトやワークショップ等の活動を行う。地域に継続的に関わりながらその場でしかできないものを形にしている。challenge とくしま芸術祭 2年連続グランプリ。

パルコキノシタ
Parco Kinoshita

現代美術家、「芸術の四国遍路展」の小助主担当。国内外で展覧会多数。東日本大震災をきっかけに石巻に移住、芸術によるコミュニティの再生や強化、復興支援活動を行なっている。南海トラフのリスクを抱え、震災に強い四国を作るには四国がひとつになることだと今回芸術の四国遍路展を開催するために任意団体芸術ハカセは見たを設立。

薬工ミュージアム
MUSEUM OF ART WARAKOH

高知にある、福祉とアート、地域とアートをつなぎ誰もが多様なものをつなごうことのできる創造的な場となることを目指した美術館です。かつて薬を保管していた薬工倉庫を改修し、2011年12月に開館しました。

ミヤタケイコ
Keiko Miyata

造形作家。短大で絵画を専攻後、めいぐるみデザイナーになる。とある舞台美術の制作スタッフに参加した経験から1994年から創作活動を始め、独自のカラーを持つ、様々な動物がMIXされたような可愛くて怖い奇妙な動物を大きいものから小さいものまで、作品は主にめいぐるみの形状だが素材は様々なものを試行錯誤しながら制作している。個展、グループ展多数。

石井葉子
Youko Ishii

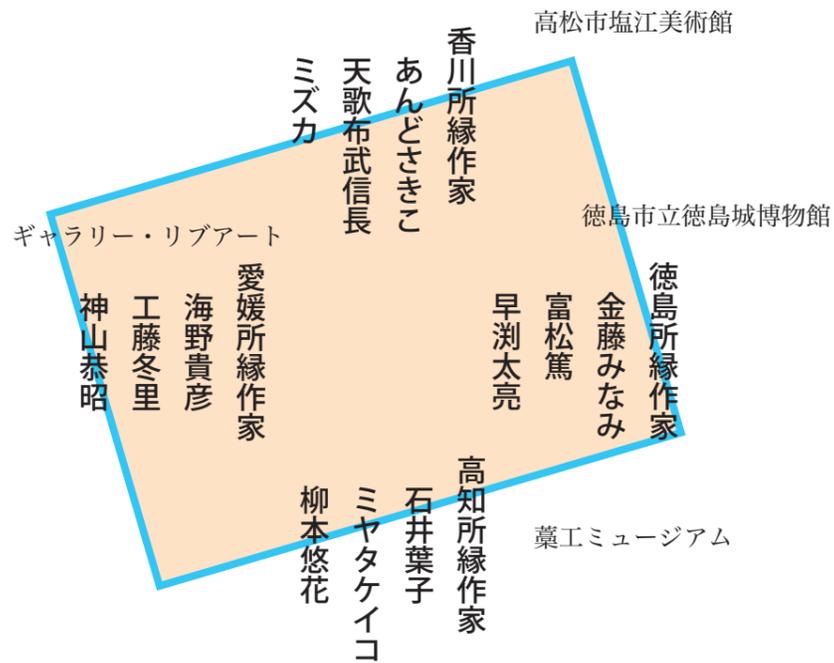
神・ヒトを主題に体験型作品を発表。小品では蟲を用いた“永久機関”の連作を行う。2003年から土地に憑く異界の者に着目し、場によって異なる作品を発表。2006年より犬島を基点に“妖怪イヌジマ”を開始し、“里帰り”を主題に多様化し複雑化する小社会と個人とのあり方を問いつける試みを展開。

柳本悠花
Yuuka Yanagimoto

裁縫美術作家。主に、故郷をテーマにした作品や訪れた場所にまつわる物語や風情を作品化し、記憶を縫いとどめる方法を模索している。

芸術の四国遍路展

芸術の底知れぬパワーを持つ四国は、そのオルタナティブにこそ真髄がある。美しいものもあれば「これはなんだ？」というものもあつたり、「これも芸術か？」というものもあるかもしれないけれど、全てがそういうわけでもない。早い話自由なのだ。そういった枠に収まりきれない表現を全て内包している四国のパワーこそ、本展の魅力であり新たな多様性と価値の創出と呼べるでしょう。日々切磋琢磨しているアーティストたちの2022年の今を、ぜひ掴みとってください。



○徳島「第三回芸術ハカセは見た！～芸術の四国遍路展 徳島編」

2022年1月25日～2月2日

1月25日午後2時～(終了未定) あんどさきこライブ
 1月29日午後1時～(約1時間程度) 天歌布武信長とミニブル 四国でできた家臣バンド
 於：徳島城博物館 午前9時30分から午後5時(入場時間は午後4時30分まで)
 月曜日休館、祝日の翌日(日曜・祝日の場合は開館)
 入館料 大人300円 学生200円 中学生以下無料
 〒770-0851 徳島県徳島市徳島町城内1番地の8 電話番号：088-656-2525 FAX：088-656-2466

○高知「芸術の四国遍路展 高知編」

2022年2月5日(土)～2月22日(火)

2月5日午後2時～(終了未定) あんどさきこライブ
 2月6日午後1時～(約1時間程度) 信長とガードレールズ 四国でできた家臣バンド
 2月6日(時間、内容は公式HPで) ミスカワークショップ
 於：藁工ミュージアム 午前10:00から午後18:00 入館は閉館の30分前まで。火曜日休館
 最終日22日は普段は火曜日で休館日ですが開館します。
 入館料 無料 781-0074 高知市南金田28アートゾーン藁工倉庫 火曜日休館
 TEL:088-879-6800 | FAX:088-879-6800

○高知「芸術の四国遍路展 高知編」第2会場 2月5日～2月22日

於：Art nest YOMO(チェルベロコーヒー内) アーティスト関連の物販を行います。
 営業時間 11:30～17:00(火・水定休) 入館料 無料 〒780-0056 高知市北本町3-11-35

○愛媛「芸術の四国遍路展 愛媛編」

2022年2月24日～3月8日

2月24日午後2時～(終了未定) あんどさきこライブ
 2月26日午後1時～(約1時間程度) 天歌布武信長と山なみバンド 四国でできた家臣バンド、and more
 於：ギャラリーリブ・アート 午前11時から午後7時 水曜日定休日
 入館料 無料 愛媛県松山市湊町4丁目12-9メゾンM2ビル3F Tel & Fax: 089-941-9558 HP: https://liveart25.com/

○香川「かがわ・山なみ芸術祭関連事業 芸術の四国遍路展 香川編」

2022年5月21日(土)～6月26日(日)

5月21日午後2時～(終了未定) あんどさきこライブ
 5月22日午後1時～(約1時間程度) 天歌布武信長のドリームバンド 四国でできた家臣バンド
 於：高松市塩江美術館 SHIONOE ART MUSEUM 午前9時00分から午後5時(入場時間は午後4時30分まで)
 月曜日休館、祝日の翌日(日曜・祝日の場合は開館)
 一般300円 大学生150円 高校生以下無料
 〒761-1611 香川県高松市塩江町安原上602番地 電話番号：087-893-1800 FAX：087-893-1833

企画：芸術の四国遍路展 芸術ハカセは見た Art nest YOMO 共催：徳島市立徳島城博物館 藁工ミュージアム ギャラリーリブ・アート

かがわ・山なみ芸術祭2022 高松市塩江美術館 協賛：チェルベロコーヒー、大西酒店 助成：徳島市 高知県文化財団



現代アートが四国を回る展覧会！
 現代アートで四国をひとつにー！



芸術の四国遍路展

来るべき時のために、アーティスト達はひとつになる。

世間一般的にアートというのは日常生活には直接あまり関係ないもののように言われておりますが、同時に世界的にアートは都市の成熟度を測るバロメーターとして、最重要視されてきている歴史もあります。特に技法にこだわらず自由な発想で表現する現代アートというのは最近地域の活性化の話題作りとして大変注目されていて、地方都市の歴史や文化の掘り起こし、観光資源の再発見に大きく寄与しているという実績もあります。

今回「芸術の四国遍路展」の企画者の一人である僕も、2011年3月11日の東日本大震災の最大の被災都市といわれる石巻市に現在居住し、地元主催の国際芸術祭参加やボランティア活動などを通じてアートによる復興支援に取り組んでまいりました。

そこで感じるのは最近本当に予期せぬ災害や事故、困難が起きるたびに物質的な支援や救援は国や行政がまかなえずとしても、被災して傷ついた人の心や避難などでバラバラになったコミュニティといったものは物やお金ではなかなか元どおりには戻らないという事です。逆に言えば地域のネットワークや人と人の交流そういった人的ネットワークに普段から力を入れている地域はとてもまとまりやすく復興も早いという事は挙げられます。脅威を乗り越えるにはお金や物では得られない心のつながりが必要なのです。

2020年、僕は東日本大震災の犠牲に遭われた方の供養とコロナの1日も早い沈静化を祈念する為に四国遍路を巡礼しておりましたところ、各寺に同じスローガンで「四国は一つ」というメッセージが貼られている事に気がつきました。実際四国を巡礼して見て思ったのは四国は島でできていて大変小さい。この四国にはまだ東日本大震災のような未曾有の大災害は起きてはいないが近い将来必ず来ると言われている。もし何かが起こった時四国は陸続きではないのだから、本州や国の支援をどこまであてにできるのかわからない。四国は四国で今こそひとつになる必要があるのだが、それはどうやって、そう考えた時に今回の「芸術の四国遍路展」のアイデアが浮かびました。僕が今東日本でやっているアートによる人と人をつなぐいでいくやり方をまだ南海トラフが来ていない四国でも有効であるという考え方です。

さらに心配なのは震災だけではなくかもしれません。今日本は様々な問題を抱えています。高齢化、少子化、都市部との格差、じわじわと地域の人と人のつながりがピンチになっていく諸問題を四国は抱えており、それは今後郷土をどのように暮らしやすい街にすれば良いのかというまづくりにもやはり直結していく待った無しの問題だと考えました。

去年1年かけて声かけリサーチさせていただいたところ、四国にはアートシーンがありました。本当に才能あるユニークなアーティストがたくさん住んでいて、しかもそれは立派な公共の美術館で活動するだけではなく、ただひたすらに面白いからやっているような、そんなオルタナティブな活動を果敢に挑み続けているという作家さんもたくさんいるというのを発見し、みなで共有したいという手応えを感じました。

まず第一回目の芸術の四国遍路展といたしましては、徳島、高知、愛媛、香川にゆかりのあるアーティストを各県で3名お声かけさせていただいて、合計12名と僕で開催させていただくことになりました。できれば、一回だけで終わる事なく、繰り返し作家の交流が行われる事をきっかけに四国4県が気軽に行ったり来たりしながらつながりを太くし、四国全体がアートで活発になっていく事でいざというとき、助け合える社会につながっていけば良い、そんな未来をイメージしながら「芸術の四国遍路展」はスタートしていきます。

とは言え、「芸術の四国遍路展」は美しい言葉ばかり並べてもやってはいられません。なぜなら芸術、アートというのは本当に表現が自由すぎて個人的すぎるものだからです。うまくいけばいいけれど本当のところは展覧会が始まってみないと誰もわからないし、途中で意見が分かれたり喧嘩だってあるかもしれません。現実そういうことは経験上アートの文脈においてよく起きるんです。だからこそ僕は「四国は一つ」とこそりもう一つのテーマをこしらえました。それは「アートより友達」というスローガンです。作家リストをみていただければわかりますがメンバーの表現領域は実に多様性に満ちています。音楽あり陶芸あり木彫、絵画etc..。とてもじゃないがまとまりがないように見えますが、本当は目に見える作品の向こう側にある心のつながりがアートの可能性を引き出してくれるのではないかと期待しています。ゆるい連帯と無限の多様性、まだ誰もみたことのないような展覧会はそういうところから生まれるものだ確信しており、夢を語らせていただければそういう心の開放の祭典を四国から世界へ発信していくことができると思っています。

任意団体：芸術ハカセは見た！代表バルコキノシタ



海野貴彦



富松篤



柳本悠花



ミヤタケイコ



天歌布武信長



ミズカ



早瀬太亮



工藤冬里



金藤みなみ



バルコキノシタ



石井葉子



あんどさきこ



神山恭昭



公式ホームページのQRコードはこちら！ art-henro.site